

- 1 実践テーマ 生徒の主体的学習を促す授業の工夫～知的好奇心と双方向性を重視して～
- 2 日時 平成21年9月11日(金)第2時限(10:00～10:55)
- 3 場所 高校1年6組 教室
- 4 対象 高等学校 第1学年6組 全員 40名
- 5 単元名 市場経済のしくみ(価格の決め方, 寡占化と独占化の傾向)
- 6 本時の展開

(1) 目標

市場経済における寡占化の実態と問題点について考える。

(2) 学習の展開

	学習活動	指導上の留意点	【評価の観点】 評価規準・(評価方法)
導入	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 前時に学習した価格の動きの特徴について教科書のグラフで振り返る。 ◎ 本時の目標の確認をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 供給のほうが多ければ価格低下の要因となることを, 売れ残り商品やトマトの価格の季節変化の例で確認する。 ◎ トマトにくらべビールの価格がほとんど変化しないのはなぜかを考えていく。 	<p>【技能・表現】</p> <p>指示されたグラフを読み取って考察し質問に答えている。(発表)</p>
展開	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 工業製品と農産物とで, 価格の変化に違いがあることに気付く 【板書】 ◎ 生産の規模とコストにはどんな関係があるか。 【発問－答え－板書】 ◎ 規模の利益を追求するとどうなるか。【色板書】 ◎ 売り手・買い手が少ないとどうなるか。 ◎ 寡占市場の例は何か。【板書】 ◎ 管理価格の性質は何か。【色板書】 ◎ 生産の規模が違うのに価格はほとんど変わらないことは何を意味するか。 ◎ 非価格競争の例は何か。 【発問－答え－板書】 ◎ 価格競争が行われなないことによる消費者への不利益は何か。 【色板書】 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 農産物と工業製品では, 供給量調整が容易かどうかの違いがあることに着目させる。 ◎ 既習知識の確認をする。(「1単位あたりの費用」として説明している。) ◎ 寡占・独占の語の用例について解説する。(国語の用例と経済での用例のずれに注意する) ◎ 極端な例を紹介する。 ◎ 教科書・資料集のグラフを見ながら身近な商品と具体的会社名で説明する。 ◎ カルテルは中学校で学習していないことが考えられるが高校では必須の内容である。修学旅行見積もりの例で説明する。 ◎ コストの低いメーカーがより大きな利益を得ているのではないか？ ◎ 夏課題の提出物を非価格競争の説明に利用する。 ◎ 実物教材を示し企業統合の時事的話題に触れる 	<p>【知識・理解】</p> <p>既習箇所をノートで確認して答えている。(ノート, 発表)</p> <p>【興味・関心】</p> <p>題材について関心をもって学習に向かっている。(観察)</p> <p>【技能・表現】</p> <p>説明を理解して考察し質問に答えている。(発表)</p> <p>【興味・関心】</p> <p>題材について関心をもって教材に注目している。(観察)</p>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 本時の振り返りをする。 ◎ 次時の予告をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 市場のしくみ(価格機構)が働かないと, 資源が有効活用されないことを確認する。 	

※ 導入 10分 展開 40分 まとめ 5分

7 授業参観者に見てもらいたいポイント

- ◎ 発問と具体的説明を通して, 生徒の学習意欲と知的好奇心を高めることができているか。
- ◎ 生徒の答えや課題提出物を活用した授業展開になっているか。